



前書き

俳諧の連歌、特に談林派のような奇想天外な滑稽さを目指した作品。

連歌・連句というものを理解して貰う目的で作製。

上演にあたって上演許可申請は不要だが、連歌作品として連句や連歌のコンクールに送るのはダメ。

大学構内の元喫茶室を使用する予定だった。

登場人物

M 宗匠 マスター

B 執筆 バイト

U 連衆 占いが趣味の裁判官

C 連衆 ケーキをつくる

R 連衆 ギャンブル好き。天気予報士

無心の百韻レンガづくりの喫茶店

M:「本日はお忙しい中、個別劇団の「徘徊の百韻レンガづくりの喫茶店」まで足をお運びいただき本当にありがとうございます。」

(マスター、開始の挨拶)

今回も小倉色紙プロジェクトの一環といたしまして、百と和歌にちなみ百韻連歌の構成をとらせていただきました。お客様にはあらかじめ、その内容を記した式次第を配らせていただきます。

(式次第を配る)

M:「開演に先立ちまして、お客様にお願いがございます。

携帯電話、アラーム時計など音の出る機器は公演中に音がならないよう設定してください。

この部屋は禁煙となっておりますのでご協力ください。以上です。」

(客、携帯等の音を切る)

M:「おとなりにならぬ御礼は芝居にて」

(入ってくる B) (MB)

B:「ちわー。」

M:「いらっしゃいませ。どうぞこちらへ。」

(椅子に座る客B)

M:「髪型はどうかございます？五分刈り、七三、それとも七七。」

B:「七七って、どうするんですか！」

M:「切れ味の良いものを突きつけ じゃ、本当に切りますよ？」

(マスター、ハサミを突きつける)

B:「髪の毛？」

M:「いえ、下の句です。連歌は五七五と七七が交互に出てきます。」

B:「しかし、なんで床屋なんです？設定は喫茶店だったはずでしょう。」

(入ってくる 客C) (MBC)

M:「いらっしゃいませ。」

C:「コーヒー。」

(客、コーヒーを頼む)

M:「はい、かしこまりました。(缶コーヒーを出しながら)

愚直にもここでコーヒー頼む客 こんどは五七五です。

設定が喫茶店だからって普通にコーヒーを頼んじゃありきたりでしょう。」

B:「だからって、缶コーヒーですか。」

(マスター、缶コーヒーをキャッチボールしながら冷ます。)

M:「さましてやらねばカンも使えぬ(缶をCに渡す)。」

(勢いよく入ってくる 客R) (MBCR)

R:「熱爛ひとつ！」

B:「なんで、喫茶店で熱爛が出てくるんだ？」

M:「まあ、いろいろありましてね。」

R:「迎え酒で酔い覚まし。酔ってるって勘が冴えないから。」

B:「それ悪循環ですよ。」

R:「熱燗 山勘 悪循環。かんかん尽くしを言おうなら。」

M:「悪循環かんかんづくしを祝うとき」

(客、かんかんづくし。)

R:「日本酒を飲むと調子上がる！なんてね。」(お銚子を上げてみせる)

(客、調子に乗って親父ギャグを言う)

B:「ひどい、親父ギャグだなあ。昔、同じようなギャグを飛ばしてた首相がいたけど。」

M:「連歌も発祥は親父ギャグのようなものだったんだ。」

その昔、心あてに折らばや折らむ 初霜の 置きまどはせる 白菊の花の凡河内躬恒

人はいさ 心も知らず 古里は 花ぞ昔の 香ににほひける の紀貫之

が詠んだものがあって、 躬恒が 奥山に船漕ぐ音の聞こゆるは と詠んだのに続けて

貫之が なれる木の実やうみわたるらむ と詠んだと書かれている。

海渡るな舟をこぐ音がしても不思議ではないという一種の冗談だね。」

B:「うみわたる ってなんです。」

M:「木の実や果物がみんな熟している。どれも良く熟れている。ってことだよ。」

まあ、こういうのは一種の言葉遊び。掛詞っていうものだ。」

R:「掛詞。いい、響き。」

M:「おっ、掛詞 好きですか？」

R:「賭け事は何でも好きよ。ギャンブルは好き。」

マスターせっかくだから、今日の勘定を賭けて一勝負。」

(客R、マスターとくじ引き)

(外れた方が。) 「残念！ハズレか。」

M:「あたらねど賭け事という中毒は

(Bに) この場合は、食中毒、食あたりなどの中ると

賭けが当たるの当たるを掛けた掛詞なわけだ、わかるか。」

R:「それより、マスター、火をください。」

M:「はい。」(ライターを取り出して渡す。)

(R、タバコを取り出して火をつけようとする。)

(マスター、そのタバコを取り上げる。)

R:「何するのよ。」

M:「ここは禁煙なんですよ。」

R:「早く言ってよ。」

(そのまま出て行く客 R) (MBC)

M:「一番最初に言ったんですけどね。」

B:「ところで、あたらねど賭け事という中毒は の後はどう続けるんです？」

M:「火のないところで熱くなるもの としとこうか、

(Bに) この場合は、火にあたると

賭けに当たるを掛けたわけだ、わかるか。」

B:「はあ。」

M:「さて、じゃあ、演技の練習だ。今日は酒の飲み方。一気飲みから。」

B:「なんか、唐突だなあ。」

M:「つべこべ言わない。これがうまい具合に次の句につながったんだ。

のこり酒頃合いを見て一気飲み (出ている銚子から酒を注ぐ)」

B:「しかも、それ使うんですか。」

(B、注がれた酒一気飲み。)

M:「ちょっと、一気飲み過ぎるなあ。

それじゃあ、酒じゃなくて水が入っているのバレバレだろ。」

(客C、コーヒー缶を開けて飲み干す。)

C:「空き缶と110円置いていくわよ。」(そのまま出て行く C) (MB)

M:「今のは、いい見本だった。」

(客Uが入ってくる。)(MBU)

U:「マスター、タバコをくれ。」

M:「これでいいですか。」(持っていたタバコを渡す。)

(客、火をつけようとするところを。マスター、ライターを取り上げる。)

M:「ここは禁煙なんです。」

U:「早く言えよ。」

M:「どうも、すみません。」

U:「じゃあ、扇子があったら貸してくれ。」

(マスター、扇子を出して。)

M:「こんなんではければ、どうぞ。しかし、今日、そんなに暑いですか？」

U:「いや、タバコを吸った気になるんだよ。そうでもないよ、落ち着かん。」

(客U 落語におけるタバコの吸い方を講釈)

B:「詳しいんですね。」

U:「大学時代 落ち研にいたんだよ。」

B:「おちけん? ああ、落語研究会。」

M:「で、落ち着きました。」

U:「ああ、一服できたよ。」

M:「では、落ち着いたらとてキセルは扇子っと。」

U:「マスター、トランプがあったら貸してくれ。」

M:「はい。どうぞ。」

U:「きってある？」

M:「いえ、まだです。切りますか?(ハサミも出しながら)」

U:「ハサミはいらんよ。」

(トランプをシャッフルする 客U)

B:「トランプ。何に使うんですか。」

U:「トランプ占いだよ。」

B:「何を占うんですか？」

U:「仕事のことだよ。」

M:「お仕事は何をなさっているんですか。」

U:「判事」

B:「？」

U:「裁判所の判事。つまり裁判官。」

B:「ええっ。もしかして。判決を占いできめてるんですか。」

M:「まあ、そういうこともあるかもしれん。

けったいな大岡裁きはトランプで」

(トランプで占いをする客U)

M:「表裏なく丸くおさめる よし、決まったな。」

U:「よし、決まった。有罪！。うわっはっはっはっはっ。」(笑いながら帰るU) (MB)

M:「では、バイト君。キャッチボールをしよう。」

B:「キャッチボール？なんで？」

M:「男同士解る心は球投げて

昔から無口な父親とのコミュニケーションと言えばキャッチボールだよ。」

B:「我々、親子でしたっけ？」

M:「まさか、冗談いわんでくれ。」

B:「で、道具ありましたっけ？」

M:「ないよ。全部想像でやる。」

(キャッチボールをする二人 白熱する二人)

M:「ギャグにもならず受けもとられず」

(失くしたボールを捜す二人)

(入ってくる客C)(MBC)

C:「マスター。ボールを貸してください。」

B:「ボールはありませんよ。」

M:「ボウルね。ちゃんとしたボウルはないですけどこんなんでもよければ。」

C:「ありがとう。」

B:「ああ、そっちのボウルね。」

M:「すれ違いかけた言葉の微妙さに」

(ボウルに卵を割りいれる 客C)

(備え付けのグラニュー糖と一緒にかき混ぜる 客C)

M:「甘さを見せるとも立てのきみ

白身と黄身を一緒にかき混ぜるのが伴立て

別々にかき混ぜるのが別立て。」

(入ってくる客R)(MBCR)

R:「マスター、ビールのジョッキ。」

M:「それだけかい？」

R:「ああ、それだけでいい。」

(マスター、空のジョッキを彼の前に出す。)

R:「空じゃないか。」

M:「それだけでいいって言ったろ。」

R:「空じゃビールのジョッキかどうか分からないでしょう。」

M:「仕方ないなあ。」

(ビールを注ぐマスター)

M:「泡立ちは細かいものが上等の ええっと上等の・・・」

B:「どう続けるんです？」

M:「ええっと洗顔フォームで顔洗うなり ええっと」

(いきなり顔を洗うマスター)

C:「マスター、ザルをかしてください。粉を篩いますから。」

M:「はい。」

(粉を篩うC)

M:「一面に粉ふるいたる面つきに」

イラストゆがんだ赤い風船 調子が出てきたぞ。」

(風船を膨らますマスター)

M:「割りといい砕け調子で出てくるを」

(風船を割るマスター)

(入ってくる客U)(MBCRU)

U:「マスター、割り箸貸して」

M:「「はしから使いつながる連歌 っと。」

『貸して』ってことは、ちゃんと返してくれるんだらうな？」

U:「返すよ。」

(客U 割り箸占いをする。)

U:「(割った箸を返しながら) はい。確かに返したよ。」

M:「割っちゃったじゃないですか。」

U:「割ってあったって割り箸は割り箸だろ？」

M:「割ればし じゃないんですか。」

U:「裁判で争うか？」

M:「やめておきます。」

C:「マスター、何か混ぜるへらかしてください。」

M:「横手から混ぜっ返すが減らず口」

(生地を混ぜる 客C)

M:「ゆうたことない坊主の頭」

(髪の毛を結いなおしている 客R)

C:「電子レンジ借りてもいいですか？」

M:「どうぞ、どうぞご勝手に。」

謎掛けの電子レンジを経と解く」

(電子レンジにかける 客C)

M:「こころはチンと鳴らして終わる」

(ベルを鳴らすマスター)

B:「マスター、ティッシュとってください。」

M:「はいよっ。」 (鼻をかむB)

M:「上品に鼻をかむのは難しい」

(かんだ後の紙を開いて覗き込むB)

M:「紙を開いて調べてみる癖」

U:「マスター、辞書を貸してくれ。」

M:「はい。」

(客、辞書で辞書占いをする。)

R:「何を調べてるんです？」

U:「何も調べてないよ。辞書占いだ。」

占うことを決めて辞書を開く。そこに載っていた言葉が結果となる。

何か、うらなってやろうか。」

R:「じゃあ、明日の天気を占ってください。」

M:「生き字引知識の源人問えば」

U:「それは靴を投げて調べた方が早くないか？」

R:「そんなこといわずに調べてくださいよ。」

U:「明日は明日の風が吹くよ。」

R:「しかたないなあ。」

(客R、天気占いをする。)

M:「平家な顔して知らぬと答えるっと。」

M:「バイト君。にらめっこをしよう。」

B:「表情の訓練ですか？」

M:「いや、そんなわけでもないけどね。」

(ふたり、にらめっこをする。)

M:「にらめっこ浮いた地顔を咎められ・・・」

(客U、客Rに誕生日を聞き、生まれた月で占いをする)

M:「生まれ月じゃけ仕方ないけん」

B:「なんで、方言なんです？」

M:「いやね、福岡人飲むと乗り良く悪ふ酒とつなげようと思って」

R:「マスター、何でもいからアルコール。」

M:「じゃあ、これを。」

R:「これは何だ？」

M:「ポリビニールアルコールです。のりですね。」

R:「飲めるの？」

M:「飲まない方がいいですよ。」

(そういつつもジョッキに注ぐマスター)

R:「じゃあ、なんでそれを？」

M:「アルコールなら何でもいっていったじゃないですか。」

R:「もう、マスターの意地悪一。」

(そのまま出て行く客R) (MBUC)

M:「話し半ばにまた水さして」

(ホウ砂水をジョッキに入れる PVB糊がスライムに変わる)

M:「亭主より庭の草木を可愛がり

バイト君、プランター水遣りを頼む。」

(プランターの水遣りをする)

M:「妬けたもみやこの忘れ草

何か忘れていませんかねえ。」

C:「えっ、何か忘れていたかしら。」 (頑張って何かを思い出すそうとするC)

M:「レンジ窓開けて覗けばいつしかの」

(思い出して、レンジからケーキを出すC)

M:「盆のようなる真ん丸い月」

(盆踊りで炭坑節を歌い踊る)

U:「マスター、風邪薬と水。」

(マスター、それらを差し出しながら、)

M:「半分は優しさで出来た鼻に風邪薬」

(風邪薬を飲む)

B:「風邪薬と前の月の句とどう繋がっているんです？」

M:「解らんかな。ぼんの良うなる だから 風邪薬

さて、では皆さん、目の前に指をこうしてください。」

(みんなで利き目を確かめる)

M:「効き目確かか疑い半分」

M:「百均にあるかのような骨董に」

(なぜか皆で鑑定ごっこ)

M:「響き似するは波の音かな」

C:「茶碗をこうするとね。海の音が聞こえるんだよ。」

(茶碗を耳に当てて響きを聞く)

M:「小豆まめ ゆるり揺するが舞台裏」

(波箱を揺らす)

M:「端役素早き着替えするの間」

(バイト、早着替え)

M:「幕の内巻きの入ったるとりかかり」

(コードを巻きながら入ってくるR)

M:「はっけよいよ残った残った」

(相撲を取る)

U:「マスター割り箸。」

M:「もうありませんよ。」

U:「じゃあ、割ればしでいい。たくさんくれ。」

(マスター、割ればしを束で渡す。)

(それを使って筮竹占いはじめる 客U。)

U:「おおっ。これは予想外の無罪じゃないか。」

M:「筮竹に見えた結果の予想外」

R:「マスター、赤鉛筆あったら貸して。」

(バイト、赤鉛筆を渡す。Rは競馬新聞を出す)

(競馬の予想をするR)

R:「よし、買うのはこれとこれだ。」(と、出て行く)

M:「買う馬券皆ことごとくハズレるは」

B:「マスター、ティッシュ。」

M:「どうした？」

B:「鼻血が出てきて。」

M:「はなっから赤字でしめす事なれば」

(バイト、鼻にティッシュをつめる)

M:「出血サービス覚悟の上よ」

(U、バナナの叩き売り)

U:「さあ！さあ！寄ってらっしゃい！！見てらっしゃい！！

・・・・・・・・・・。」

M:「月曜の朝の授業のねむからん」

(出欠を採る、B)

R:「すいません、遅れました。」(と、入ってくる。)

B:「ま、しかたないな。では、授業を始めます。」

M:「先生だけが張り切っている」

(選手宣誓)

B:「宣誓！僕たち。私たちはスポーツマンシップに則り・・・。」

U:「宣誓のやり方が違う。宣誓と、いえばだなあ。」

(証人の宣誓をする、B)

B:「良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、偽りを述べないことを誓います。」

M:「裁判所承認尋問駆け出しの・・・」

U:「よく分かっているじゃないか。」

C:「異議有り！」

M:「おお、波乱含みのスタートを切る　　では、皆さん。位置について。用意、ドン！」
(みんなで、スタートダッシュ)

C:「宣誓といえば。

汝、海田幸一郎は、北原幸子を妻とし、健やかなるときも、病めるときも、
喜びのときも、哀しみのときも、富めるときも、貧しきときも、
妻とともに暮らし、慰め、助け、命ある限り愛し続けることを誓いますか？
がいいんじゃないですか。」

(結婚式)

M:「なるほど。ささやかな式から第二の人生がと続けましょう。」

R:「結婚ねえ。考えてもいいんだけど。」

M:「仕事も大事なんでしょう。」

R:「今の仕事はクビになっちゃって」

M:「おやおや、第二の人生が　前倒しで来る定年の朝」

(前に倒れるU、支えるC)

B:「肩叩きにあったんですね。」

M:「肩叩き孫からならば良かったに」

(肩叩きをするU、されるC)

B:「どんな仕事をしてたんです。」

R:「気象予報士。ギャンブル好きだから。」

M:「他人の手猫の手あの手この手で」

(じゃんけんをするUとC)

M:「サルの手は願いも叶えずバナナ剥く」

(バナナの皮を剥くUとC)

M:「知恵の木の実の進化の跡やも」

(りんごの皮を剥くマスター)

R:「マスター、なんか遊ぶもの貸して。」

M:「また一つ知恵をつけたる人間は」

(知恵の輪を借りて遊ぶR)

M:「悪戯っ子がミイラ男に」

(トイレットペーパーをUの頭に巻くCとB)

U:「何をする。この。」

M:「まあまあ皆さん。頭にこの手ぬぐいを付けてください。」

M:「頭には白い布をば巻いており」

(みんな、それぞれに手ぬぐいをつける)

M:「おや、裁判長。その巻き方は？」

U:「大学時代。剣道部に居ったものでね。」

B:「おや、落語研究会じゃなかったんですか？」

U:「剣道部にもいたんだよ。マスター、電話を貸してくれ。」

M:「市内ですか、市外ですか。」

U:「市外だったら貸さないのかよ。」

M:「ええ、高いですからね。」

U:「じゃあ、市内にするよ。」

(マスター、カウンターから竹刀を取り出す。)

(竹刀を受け取って素振りを始めるU。)

M:「面をつければ竹刀振るなり」

M:「降るならば傘さし帰る帰り道」

(バイトが傘をさしUに渡す。)

(Uはそれを閉じてゴルフスイングの練習をする。)

M:「駅のホームでゴルフの練習」

U:「なつかしいねえ。ゴルフ部にも入ってたんだよ。」

M:「何気なく隣と交わす昔話」

(日本昔話を始めるC)

C:「むかーし。むかしのことじゃったー。・・・」

B:「その昔話じゃありませんよ。」

R:「枯れ木に花を咲かせましょう。」

(そう言ってティッシュを撒き散らしていくR)

M:「花が咲くのを幸いとして」

M:「散歩道ひと休みまた一休み

みなさん。あと30になりましたよ。

ここで一休みしましょう。」

B:「それでは皆さん、休憩しましょう。」

(みんな休憩タイム)

U:「求刑といえば勿論わかっているだろうな。」

B:「今回の事件は身勝手極まりない犯行であり。

公判中の被告人の態度からも反省の様子は伺えない。

被害者も被告に厳重な処罰を望んでおり

よって被告人に懲役8年を求刑する。」

M:「休憩の後に待つは判決

裁判長さん。判決をどうぞ。」

(花占いのU そして判決。)

U:「有罪。無罪。・・・。」

M:「気になるは身内同士がひそひそと」

(他の人たちでひそひそ相談)

(そして花いちもんめ)

3人：「きーまった。勝ってうれしい花いちもんめ。」

M:「負けて悔しい花一匁では問題です。」

現在でも匁を単位として計るものはどれでしょう。

次の選択肢から選んでください。

一番 豆腐 二番 牛肉 三番 バター 四ば・・・

」

(早押しするC)

M:「おや、まだ問題の途中ですよ。大丈夫ですか・・・では、お答えは？」

C:「真珠！」

M:「すばらしい。そのとおり。」

正解は75番の真珠でした。」

B:「選択肢 多すぎ。」

U:「あああ、解ってたのに。」

M:「クイズでは早押しボタンで押し負けて

では、負けたチームのお二方には罰ゲームで健康にもいい
センブリ茶を飲んでいただきます。

罰ゲームにはセンブリのお茶」

(罰ゲームをする二人)

R:「マスター、テレビ見ていい。」

M:「どうぞ。」

(TVをつけようとするR)

M:「ありふれたバラエティ見る良い時間」

R:「付かないわよ。」

M:「事件はつかぬテレビのリモコン」

リモコンの電池が切れてるんですよ。

これ、入れてください。」

(リモコンの電池を交換するR)

U:「マスター。何か飲んでいい。」

M:「何がいいですか。」

U:「炭酸の。炭酸ならなんでもいい。電池は駄目だけど。」

M:「じゃあ、これ。」

U:「何これ？」

M:「炭酸ですよ。重炭酸ナトリウム。重曹ともいいますが。」

U:「飲めるの？」

M:「飲まない方がいいと思いますよ。アク抜きや膨らし粉に使います。」

C:「あ、それ俺がケーキ作るのに持ってきたやつじゃないか。」

M:「そうでしたね。少しもらってもいいですか？」

C:「まあ、いいですけど。」

M:「単三の入れようひとつで変るもの」

(マスター、スライムにタンサンを混ぜる)

R:「あら、マスター、また変なもの作ってるわね。」

M:「スライムですか。」

R:「私にも遊ばせて。」

M:「どうぞ。」

(しばらくスライムで遊ぶR)

M:「手触り固め変なスライム」

U:「マスター 携帯電話を貸してくれ。」

M:「はい。どうぞ。」

B:「今回は貸すんですか？」

M:「もったいないけど、あるのに出さないのは主義に反するからな。

形態をころころ変えて手のままに」

(携帯電話を掛けるU)

M:「糸あやつりの首の縦振り」

(マリオネットを動かすマスター。)

R:「うん、うん。」

(マリオネットの演技に合わせて相槌を繰り返すR。)

M:「打ち解けて話すもならずうなずきが」

M:「さて、お客さんはなぜこれをスライムって言うか知ってます？」

R:「・・・」

M:「酢やライムなどのすっぱいものをかけると融けるんです。

水にはあまり融けないんですけどね。」

(御酢をかけてスライムを溶かすマスター)

M:「眠りの中へととろけていく頃」

M:「今日が過ぎ明かりも消して今は只」

(照明を消すマスター)

M:「肩寄せあって怪談話」

(怪談話をするR)

これは先輩から聞いた話なんだけれど

春休み、その先輩は先輩の彼氏の車でとある別荘地まで行ったんだって。

で、行きは彼氏の方が運転してたんだけど、

帰りは彼氏がお酒を飲んだあとだったらしくて、

どうしよう、てっことになったんだけど、

行きに来たときそんな時間のかかるところじゃなかったから、

だいじょうぶだよって、その先輩が運転することにしたのね。

でも、知らない道だったし、最初のうちは記憶と勘と地図をたよりに走らせてたんだけど、その町を出て山道に差し掛かったところで「そこの道を左」って隣から彼がナビゲートを始め、そのあと、先輩は運転に専念することにして、彼に道のほうを任せちゃったわけ。そうして、しばらく運転してたんだけど、そのうち行きに来た時の記憶にない、へんな道に出ちゃったのね。でも先輩はここが近道なのかなっておもって、そのまま彼がナビしてくれるとおりに運転をしていたの。その山道をすすんでちょうど峠のような場所に出たあたりで、「あ、そこ右に」って声が聞こえてきて先輩はあわてて右に曲がろうとしたら、そこは見事に逆のヘアピンカーブで車の前にはガードレールしかないの。とっさにハンドルを切り返してギリギリでスピンさせて助かったんだけど、ガードレールの向こうは真っ黒なすごい切り立った崖になっているの。先輩はおこって、助手席の彼の方に向き直ったら、彼は完全に熟睡していて、何がなんだかわけが分からなくなった彼女の耳元に女の人の声で「死ねば良かったのに...」という呟きが聞こえてきたんだって。

それから、これは朝になって地元のガソリンスタンドの人に聞いたんだけど、そこはすごく事故の多いカーブで、死体が見つからない事故とかもしょっちゅうあるんだって。

(懐中電灯を顎に当てて、脅かすU)

M:「怖いもの闇夜に浮かぶ人の顔」

(明かりが点く)

M:「何かのとけた謎の液体 誰か捨てて来て」

(怪しい液体を捨てに行くB)

M:「解けぬ謎絡まった糸ほどきつつ」

(あみかけから毛糸を解いているU)

U:「今更だけど、手芸部にも居たんですよ。」

M:「あまった毛糸言葉の綾取り」

(綾取りをするRとC)

M:「慣用句舌を巻くやら管をまく」

(くだを巻くRと巻き舌のC)

M:「あまりのことに匙を投げ出す」

(スプーンを投げるマスター)

U:「スプーンといえぱやっぱり。(それを拾う)」

M:「曲げないでくださいよ。」

(少し考えて視力検査を始めるU)

M:「驚くは指し棒見えぬ目の悪さ」

M:「先生からも折り紙つきだよ」

(折り紙を折るR)

M:「初陣の兜に刀の勇ましく」

(戻ってきたB、折られた兜を被る)

U:「ところで、マスター、何でもいいから飲めるものをくださいよ。

さっきのセンプリがまだ口の中に残っている。」

M:「何でも？」

U:「重曹とか、身体に悪い成分は入っていないやつをお願いしますよ。」

(マスター、酢の入ったコップを渡す。)

(御酢を飲む)

U:「うわっ。なんだこれは。」

M:「お酢。健康にはいいよ。飲めればだけど」

U:「せめてリンゴ酢バーモントとかにしてくださいよ。」

M:「飲めと言われて 酢なのに飲んだ

まずい方がリアルな演技になるでしょう。

素に戻る演技もよろし鶴と亀」

(みんなでかごめかごめ)

M:「夜明けの晩にはバナナですべる」

(みんなバナナですべる)

M:「ナンセンスギャグに張り扇飛び出して」

(みんな張り扇で叩き合う)

M:「おおぎりかざし仕舞い舞うなり」

(扇をかざして 舞い踊る)

百韻連歌と動作

1 M: 「くつろぎの場にも確かな師走かな」

(開始の挨拶)

2 M: 「次第次第に騒がしき頃」

(式次第を配る)

3 M: 「おとなりにならぬ御礼は芝居にて」

(携帯等の音を切る)

4 M: 「切れ味の良いものを突きつけ」

(ハサミをつきつける)

5 M: 「愚直にもここでコーヒー頼む客」

(コーヒーを頼む)

6 M: 「さましてやらねばカンも使えぬ」

(缶コーヒーをキャッチボールしながら冷ます)

7 M: 「悪循環かんかんづくしを祝うとき」

(かんかんづくし)

8 M: 「くだらぬからこそ面白きもの」

(調子に乗って親父ギャグを言う)

9 M: 「あたらねど賭け事という中毒は」

(マスターと賭け)

10 M: 「火のないところで熱くなること」

(タバコを取り出して火をつけようとする)

11 M: 「のこり酒頃合いを見て一気飲み」

(一気飲み)

12 M: 「落ち着いたとてキセルは扇子」

(扇子を煙管がわりに一服)

13 M: 「けったいな大岡裁きはトランプで」

(トランプをシャッフルする)

14 M: 「表裏なく丸くおさめる」

(トランプで占いをする)

15 M: 「男同士解る心は球投げて」

(キャッチボールをする二人)

16 M: 「ギャグにもならず受けもとられず」

(失くしたボールを捜す二人)

17 M: 「すれ違いかけた言葉の微妙さに」

(卵を割り入れる)

18 M: 「甘さを見せるとも立てのきみ」

(砂糖と一緒にかき混ぜる)

- 19 M: 「泡立ちは細かいものが上等の」
(ビールを注ぐ)
- 20 M: 「洗顔フォームで顔洗うなり」
(いきなり顔を洗う)
- 21 M: 「一面に粉ふるいたる面つきに」
(粉をふるう)
- 22 M: 「イラストゆがんだ赤い風船」
(風船を膨らますマスター)
- 23 M: 「割りといい砕け調子で出てくるを」
(風船を割る)
- 24 M: 「はしから使いつながる連歌」
(割り箸占い)
- 25 M: 「横手から混ぜっ返すが減らず口」
(生地を混ぜる)
- 26 M: 「ゆうたことない坊主の頭」
(髪の毛を結っている)
- 27 M: 「謎掛けの電子レンジを経と解く」
(電子レンジにかける)
- 28 M: 「こころはチンと鳴らして終わる」
(ベルを鳴らす)
- 29 M: 「上品に鼻をかむのは難しい」
(鼻をかむ)
- 30 M: 「紙を開いて調べてみる癖」
(かんだ後の紙を開いて覗き込む)
- 31 M: 「生き字引知識の源人問えば」
(辞書で辞書占い)
- 32 M: 「平家な顔して知らぬと答える」
(天気占いをする)
- 33 M: 「にらめっこ浮いた地顔を咎められ」
(にらめっこ)
- 34 M: 「生まれつきじゃけ仕方ないけん」
(生まれた月で占い)
- 35 M: 「福岡人飲む乗り良く悪心酒」
(何でもいいからアルコール)
- 36 M: 「話し半ばにまた水さして」
(水をジョッキに入れる)
- 37 M: 「亭主より庭の草木を可愛がり」

(プランターの水遣り)

38 M:「妬けたもみやこの忘れ草」

(頑張って何かを思い出す)

39 M:「レンジ窓開けて覗けばいつしかの」

(レンジからケーキを出す)

40 M:「盆のようなる真ん丸い月」

(盆踊り 炭坑節)

41 M:「半分は優しさで出来た鼻に風邪薬」

(風邪薬を飲む)

42 M:「効き目確かか疑い半分」

(利き目を確かめる)

43 M:「百均にあるかのような骨董に」

(なぜか皆で鑑定ごっこ)

44 M:「響き似するは波の音かな」

(茶碗を耳に当てて響きを聞く)

45 M:「小豆まめゆるり揺するが舞台裏」

(波箱を揺らす)

46 M:「端役素早き着替えするの間」

(早着替え)

47 M:「幕の内巻きの入ったるとりかかり」

(コードを巻く)

48 M:「はっけよいよ残った残った」

(相撲を取る)

49 M:「筮竹に見えた結果の予想外」

(筮竹八卦占い)

50 M:「買った馬券は皆紙切れに」

(競馬の予想)

51 M:「はなっから赤字でしめす事なれば」

(ティッシュを鼻に詰める)

52 M:「出血サービス覚悟の上よ」

(バナナの叩き売り)

53 M:「月曜の朝の授業のねむからん」

(出欠を採る)

54 M:「先生だけが張り切っている」

(選手宣誓をする)

55 M:「裁判所承認尋問駆け出しの」

(証人の宣誓をする)

56 M:「波乱含みのスタートを切る」

(スタートダッシュ)

57 M: 「ささやかな式から第二の人生が」

(結婚式)

58 M: 「前倒しで来る定年の朝」

(倒れる)

59 M: 「肩叩き孫からならば良かったに」

(肩叩きをする)

60 M: 「他人の手猫の手あの手この手で」

(じゃんけんをする)

61 M: 「サルの手は願いも叶えずバナナ剥く」

(バナナの皮を剥く)

62 M: 「知恵の木の実の進化の跡やも」

(リンゴを剥く)

63 M: 「また一つ知恵をつけたる人間は」

(知恵の輪)

64 M: 「悪戯っ子がミイラ男に」

(トイレトペーパーを頭に巻く)

65 M: 「頭には白い布をば巻いており」

(手ぬぐいをつける)

66 M: 「面をつければ竹刀振るなり」

(竹刀を振る)

67 M: 「降るならば傘さし帰る帰り道」

(傘をさす)

68 M: 「駅のホームでゴルフの練習」

(ゴルフスイングの練習)

69 M: 「何気なく隣と交わす昔話」

(昔話)

70 M: 「花が咲くのを幸いとして」

(枯れ木に花を咲かせましょう)

71 M: 「散歩道ひと休みまた一休み」

(休憩する)

72 M: 「休憩の後に待つは判決」

(判決)

73 M: 「気になるは身内同士がひそひそと」

(ひそひそ相談)

74 M: 「負けて悔しい花一匁」

(花いちもんめ)

75 M: 「クイズでは早押しボタンで押し負けて」

(早押しクイズ)

76 M: 「罰ゲームにはセンプリのお茶」

(罰ゲーム)

77 M: 「ありふれたバラエティ見る良い時間」

(TVをつけようとする)

78 M: 「事件はつかぬテレビのリモコン」

(リモコンの電池を交換)

79 M: 「単三の入れようひとつで変るもの」

(炭酸)

80 M: 「手触り固め変なスライム」

(スライムで遊ぶ)

81 M: 「形態をころころ変えて手のままに」

(携帯電話を掛ける)

82 M: 「糸あやつりの首の縦振り」

(マリオネット)

83 M: 「打ち解けて話すもならずうなずきが」

(うなずく)

84 M: 「眠りの中へととろけていく頃」

(融けていく)

85 M: 「今日が過ぎ明かりも消して今は只」

(照明を消す)

86 M: 「肩寄せあって怪談話」

(怪談話)

87 M: 「怖いもの闇夜に浮かぶ人の顔」

(懐中電灯を顎に当てる)

88 M: 「何かのとけた謎の液体」

(怪しい液体を捨てに行く)

89 M: 「解けぬ謎絡まった糸ほどきつつ」

(毛糸を解く)

90 M: 「あまった毛糸言葉の綾取り」

(綾取りをする)

91 M: 「慣用句舌を巻くやら管をまく」

(くだを巻くと巻き舌)

92 M: 「あまりのことに匙を投げ出す」

(匙を投げる)

93 M: 「驚くは指し棒見えぬ目の悪さ」

(視力検査をする)

94 M:「先生からも折り紙つきだよ」

(折り紙を折る)

95 M:「初陣の兜に刀の勇ましく」

(折られた兜を被る)

96 M:「飲めと言われて 酔なのに飲んだ」

(お酔を飲む)

97 M:「素に戻る演技もよろし鶴と亀」

(かごめかごめ)

98 M:「夜明けの晩にはバナナですべる」

(バナナですべる)

99 M:「ナンセンスギャグに張り扇飛び出して」

(張り扇で叩き合う)

100 M:「おおざりかざし仕舞い舞うなり」

(大喜利 舞)